

ひかりの丘



第97号

2015.3.20

社会福祉法人 いわき福音協会

福島整肢療護園

〒970-8001

福島県いわき市平上平塙字

古館1番地の2

TEL.0246-25-8131

FAX:0246-22-1259

<http://www.ryogoen.jp/>

E-mail.info@ryogoen.jp



鬼は外～♪ 福は内～♪

1年健康で過ごせるように思いを込めながら

「鬼は外！」と豆を頑張って投げ、無事鬼退治が出来ました。

今年も福がいっぱいの1年になるといいですね♪

目次

つくる+そだてる+たべる～達成!	2～3	お世話になりました	5
親の会と懇談会の再開	4	療護園に感謝して	6
第50回 肢体不自由児・重症障がい児者等		りょうご園カフェへようこそ!	6
療育職員講習会に参加して	4		



つくる + そだ 達



食育

昨年の夏は子どもたちがみんなで育てた、トマト、キュウリ、インゲン、トウモロコシを収穫し美味しくいただきました。トウモロコシの収穫はほとんどの子が初体験! いつも見ているトウモロコシがないことに戸惑う子どもたち…。緑の皮をむいて黄色いトウモロコシを見ると、子どもたちは「わーほんとだー」と、とびきりの笑顔と共に歎声をあげました。なかなかとれないトウモロコシに一苦労し、お友達とトウモロコシを囲みながら楽しく、ひとつひとつ丁寧に皮とひげを剥きました。さあ、食べるぞと気合十分な子どもたち…。次は茹でる行程があることを伝えると1度はガッカリしながらも、ブレイルーム中に漂う甘い香に目を輝かせていきました。食べ物が口に入るまでには、たくさんの行程があり大変なこと、作っている人への感謝の気持ちや食べ物の大切さを感じることができました。また、自分たちで育て、収穫、調理し、その達成感や喜びで美味しいも格別だったようです。

冬にはクッキー作りに挑戦しました。やる気満々の子どもたち、材料や道具、レシピにも興味津々です。卵を割ったり、溶立て器で混ぜたり、めん棒で伸ばしたり、型抜きをしたり…。一人ひとりが、「やりたい!」気持ちで満ち溢れています。やりたい時が伸びる時! そんな子どもたちの気持ちを大切にしていきたいです。子ども達が作ったクッキーは、みんなで食べたり、隣かい者作品展に出展し、クリスマス祝会の装飾にもしました。

中庭では寒さに耐えたニンニクが育っています。



てる+たべる 成!!



展示会 in イオン

12月5日～12日、イオンいわき店にて第29回障がい者作品展が開催され、第一病棟は手作りクッキーを、第三病棟ではクリスマスオーナメントを出品しました。

クッキーは星やハートの形にくり抜き、クリスマスらしくデコレーションをして焼きました。オーナメントはフィルムをくしゃくしゃに丸めてラミネート加工し、星やツリーの形に切りました。

みなさん、クッキー生地やフィルムの感触を楽しみ、思い思いの作品にしあげました。

2014年 クリスマス祝会

12月13日(土)、療護園の1年に1度の大イベント!! クリスマス祝会が今年も希望館で行われました。

企画も盛り沢山!! 入園者によるキャンドルライトサービスと職員の聖歌隊。2014年、大ブームを巻き起こした「アナと雪の女王」を療護園フローズンズ(職員)が披露。会場全員参加で楽器演奏しました♪ あわてんぼうのサンタクロース♪ 第1病棟は打楽器やラッパ、ツリーチャイム、そして第3病棟は鉦を担当。思い思いに楽器を鳴らしステキな曲に仕上りましたね(^_~*) 肩をポンっ!とされたらベルを鳴らす即興ハンドベルでは、いつくるか分からぬポンっ!にドキドキ☆ そして、何が当たるかな?! ドキドキ☆ ワクワク☆のピンゴ!! 豪華景品が当たったラッキーな方、おめでとうございます☆

退場時は、ふれあいたのしい会に続き、第2弾のプチファッションショー!! お父さん・お母さん・職員と一緒にステキな服や小物でオシャレに変身☆ なんと!! "ダメよ～ダメダメ!!" の時の2人も遊びにきてくれました!!



そして今年は、食堂と第3病棟ホールに別れ、食べるのがもったいないくらいのクリスマスペシャルメニューにみんな笑顔いっぱいでした(^_~)v

2015年は、どんな祝会にしようかなぁ…みんなでどんな思いで作ろうかなぁ…今から、とっても楽しみです☆

職員の声

療護園に入職して3年目、私にとって3回目のクリスマス祝会は、今年も楽しい思い出となりました。私にとってクリスマス祝会は“いつもと違う雰囲気”でワクワクする時間です。周囲の様子で変わらる入園者の方々の表情や、いつもよりもおめかししているみんなを見るのが毎回とても楽しめます。クリスマスの雰囲気はみんなをワクワクさせますが、“ワクワク”から“楽しい”に変わるには、実際に自分が体感する必要があります。楽器を弾く、おしゃれな格好でたくさん声をかけてもらう、サンタからプレゼントを渡される…。体感して“自分がやった感・自分が主役感”を感じられる祝会は、入園者の方々にとっても日々の生活の中で得にくい特別な時間だと思います。

今回も、前回に引き続き親御さん参加型でしたが、親御さんにとっての祝会も特別な場になっているのではないかでしょうか。今回は病棟に戻って食事をとるという初の試みがありましたが、大きなテーブルをみんなで囲んで、いつもと同じ場所でもアットホームな雰囲気になっていました。自然と顔を合わせる設定で、親同士のコミュニケーションの場となっていましたように思います。私自身も、普段よりもみんなと近い距離で、「○○さん甘いのが好きだね」など職員同士の話も弾み楽しかったです。みんなの“楽しい”を作ることは簡単ではないと思いますが、今後もクリスマス祝会を応援していきたいです。

作業療法士 伊藤 莉菜



親の会と懇談会の再開

施設整肢療護園長 渡邊 信雄



梅の花がほころび始め、優雅な香りに今年も春の到来が感じられる頃となりました。東日本大震災以来中断されたいた福島整肢療護園親の会と職員との懇談会が二月二七日に四年ぶりでかんばる宿いわきで開催されました。親の会からは遠藤すい子会長ご夫妻、斎藤秋雄副会長はじめ十名が、療護園からは園長ほか運営会議メンバー九名が参加しました。大震災前は毎年恒例で開催されていたところですが、今回は昨年十一月末に親の会から園に要望書が提出され、その回答の場を兼ねて情報交換と懇親が企画されました。

親の会から园の要望書は四項目あり、「入浴について、週3回

程度にでもいい」「夕食の時間を子供たちの生活実態に合わせてもらいたい」「二ヶ月に一回程度の頻度で歯科検診を行ってもらいたい」「遠方から来る親のために、宿泊施設（風呂つき）を設けてもらいたい」でした。昨年秋の親の会会員の岩手県「みちのく療育園」施設見学から浮かび上がったことでしたのが、どれも療護園が抱えている重要な課題です。

入浴回数については、現在週二回で実施していますが、安心安全でゆったりとした質の良い入浴を確保し、生活日課に組み入れている療護園独自のリハビリと日中活動を限られた職員数で両立させている現状をご理解いただきたいと思います。

夕食時間については、一般病院では6時が通常給食時間とされていますが、当園では第三病棟で4時30分、第一病棟では5時10分で運用しています。障害者の特例を適用しての運用ですが、個々の栄養機能に合わせた段階食を、安全に提供することが最も重要と考えています。しかし朝食までの絶食時間が長い

という栄養上の問題があり、職員の配置や増員による改善を今後も検討していかたいと考えています。

歯科検診や口腔ケアは虫歯予防のみならず、肺炎の予防のためにも重要であることがわかつて来ています。口腔ケアは当園の言語聴覚士が関与して、摂食能療法とともにこれまでも実施されてきましたが、歯科医師会や歯科衛生士の協力を得て、できるだけ早くこを望んでいます。面会訪問時の宿泊や入浴に関しては、病棟の面会室や医師住宅の利用が可能であり、ご希望に応じて調整させていただきます。

現在、当園では医師確保、入所者の減少に合わせた病棟統合、施設の老朽化のための建て替えなど、今後の施設の維持と存続に関する重大な課題を抱えています。今回の懇談会では、親の会の皆様から感謝と励ましの言葉を沢山いただきました。皆様のご支援と連携のもと、これらも障害児者のために職員一休となって頭張つて行きたいと考えています。

第50回 肢体不自由児・重症障がい児者等療育職員講習会に参加して

保育指導課 保育士 奈良 亜衣

私は、今回、第50回肢体不自由児・重症障がい児者等療育職員講習会に5日間参加しました。

この講習会は、多様なプログラムで構成されており、どの講義も興味深い話でありとても勉強になりました。その中で特に心に残った講義の一つを紹介します。

障がいを持つ保護者の方の話を聞くことができました。話の中でこのようなことを言っていました。

「障がいを持っていても一人ひとり個別に声をかけてもらうことを待っている。療育・支援とはその人、一人ひとりの笑顔を引きだし、経験を広げる。その中で失敗する経験をさせてほしい。なぜなら、それが本人の気づきとなり、次にどうするかにつながっていくから。」

この話を聞き、療育に携わる保育士として、療護園で自分には何ができるかを考えました。

療育活動の一つを取り上げてみても、この入園児にはできないだろうと決めつけるのではなく、私たちにとって普段、何気ないことも入園児者がどう感じているのかを考え、小さな反応も見逃さないことに思います。また、四季を感じることができる活動や、入園児者のQOL向上のために療護園で生活していく楽しいと思える場の提供に努め、生活の中で楽しみ、様々な経験ができるように実践していくことだと思います。そして、何

よりも大事なことは入園児者と一緒に共感し、共に楽しみを分かち合いながら一人ひとりとの関わりを大切にしていきたいと思います。

子どもたちが施設の中で人として尊重され、生活・暮らしでいてうれしいと感じられる生活の場の提供を大事にしながら今後も仕事に努めていきたいと思います。

最後に今回の研修では、音楽を使った表現活動の実習やスポーツクリエーション活動の実習といった療育活動についても自ら体を動かし体験してきました。

写真(上)は入園児も好きな活動の一つであるバルーンですが、バルーンの上でバケツの中に上手にボールを入れるといった活動です。少しの工夫で違う楽しみ方があることを知りました。

この貴重で楽しかった経験を現場でも取り入れていきたいと思います。

この活動は身近にある傘を使い、傘が傘にあたる音を楽しんだり、自分でボールを入れ楽しんでいる様子です。



お世話になりました

28年と半年間に渡り福島整肢療護園を支えてこられた副園長 漢純先生が、平成27年3月31日で退職することになりました。

漢 純 先生の業績

昭和56年山形大学医学部を卒業後、山形県内及び福島県内の病院に勤務後、昭和61年10月1日に社会福祉法人いわき福音協会福島整肢療護園に入職されました。重度児の姿勢管理、デュシャンヌ型筋ジストロフィーの伸立位誘導、脳性まひ児の電動車いす、摂食のチームアプローチ等に取り組みました。

また、リハビリテーション棟(希望館)の建築にも着手しました。



おげんきて

長い間 一同



じゅん先生



ありがとう

ありがとう さよなら
くれり げんき(けんきにならなくなり) ありがとう
ざはー たべる(たべさせてくれて) ありがとう
あ達也より

じゅんせんせい、ばいび
横山有里子より

じゅーしでいい、またにー
牧田博里より

ありがとう
ぼくの
第2のパパ



洋人

じゅんせんせい、ばいび
松村晴樹より



じゅんせんせいへ
いえまでどうもありがとうございます
じゅんせんせいといっしょにおはなしをしたことを
いっぱいたのしかった
いっぱいかずこのしゃくつをしてもらつた
またよぞえんにおやひにきてください
伊東和子より



ささきなより

漢先生は、常に何かに挑戦していたように感じます。特に思い出深いのは、園外発表をまとめる時に、度重なる駄目だしと指導をいただいたことです。これに限らず、何かを始める時の理論的な考え方と展開の仕方を細かく指導していただいたように思います。28年と半年の間の時の流れは、ビール、日本酒からもっぱらワイン、焼酎に変わり、サイクリングは登山へと発展、自然を愛する熱年へ変化しました。頭髪については触れないであります。新しい職場で今まで実践してきた事が通用するのか? より発展させるのか? 漢先生の挑戦は当分続くのでしょうか。28年間療護園を支え、障害児リハの方針性を示していただきありがとうございました。

リハビリテーション科長 理学療法士 相澤 幸代

私が就職した24年前は、今は亡き漢治郎先生が園長として絶対的存在感を持ちパソコンオタク、サイクリングボーイの純先生はリハスタッフを熱心に教育し、気概のある若き青年医師でした。障害児のリハビリテーションはどうしたら良いのか? 将来を見越した療育のために何を、どの時期にしたら良いのかを常に模索、探し、漢正美先生のお知恵と多くの協力もあって、ローン台の原型が出来上がり、リハスタッフにはローン台の手作業での作成、適合チェックができるよう研修が行われました。ここから現在の重度障害児の姿勢管理の概念やハウツウが出来あがってきました。また治郎先生から引き継いだ園長時代に、「もぐにこプロジェクト」や摂食の園内研修を立ち上げ、ここから発展させた食形態の変革も指揮し療護園の美味しい、見た目にも美しい給食ができました。今思え

療護園に感謝して

看護指導部長 橋本 澄子



多くの皆さんからたくさんのご支援・ご協力を頂きながら、定年退職を終えることができる少しほっとした気持ちで迎えています。平成22年4月入職後、9月園長柳沢俊郎先生退職、新たに湊治郎先生再園長就任、平成23年3月11日には東日本大震災・福島原発事故の発生とそれによる入園児者の避難～帰園等の対応、平成24年4月新園長渡邊信雄先生就任、園内組織の新体制へと大波・小波の5年間でした。

また、福祉制度の改正や社会の中での障がい者に対する認識も大きく変わってきており、病院・施設という枠におかれている当園も地域に貢献できるよう新たな見直しをしながら前向きな運営・経営へと動いてきました。しかし、このたび湊先生ご家族が園の医療体制に長ら

く貢献してこられた歴史に終わりを告げることとなり、こうした中で医師や看護師などの人材確保は、東日本大震災の影響もありいわきにおいては厳しいものです。しかし、今後も政策に対応しながらの医療と福祉の機能を維持するためには、関係機関へのお願いもさることながら、できることを吟味し、提供する医療の質の維持・向上、日常生活のQOL向上へと向き合い、いま働いている方々の多職種間の連携、さらには各々が持てる力を出し合い、民立民営であるからこそできる豊かさに挑戦していくことであると思います。

当園を受診される患者さんや入所されている方々、ご家族の皆様がいることに誇りを持ち、皆さんに応えていくことが大切です。今後、入所されている方々の高齢化対応、地域で生活する方々への支援拡大など自分たちの専門的知識を高め、人間力をもって、会話を大切に仕事に精通していただきたいと願っています。日々の仕事は大変な面も多くありますが、ここをご利用くださる方々とのピュアなふれあいは、私たちの宝物です。いつまでも優しく丁寧な仕事をしていただけるようにと願っております。みなさんありがとうございました。



このコーナーでは、当園のスタッフが好きなこと、気になることなどを自由におしゃべりします。スタッフの新たな一面がわかるかも! 第10回は、事務部長の松本裕一さんです。

いつの日かモナコでラリー観戦を…

仕事以外に夢中になれるものがありますか?と問われれば、ためらいなく「ラリー観戦」と答える自分がおります。そもそもラリーとは、モータースポーツカテゴリーの一環ですが、日本国内では認知度が低く、F1の様な華やかさや存在感はありません。しかしながら、ヨーロッパでは公道のF1と呼ばれており、非常に人気の高いモータースポーツとなっており、毎年世界各国を転戦してラリーファンを熱狂させています。2006年には北海道で世界選手権が開催され、幸運にもその世界のトップレベルのマシンや、神業とも言えるドライバーのマシンコントロールテクニックを目の当たりにする事が出来、大いに感動した事を思い出します。「ラリー」の語源は「生きて帰る、再び集まる」といった意味があり、中世ヨーロッパで、王様が領地の騎士達を城へ招集し、その時間を競ったのが始まりといわれているそうです。

今年もフレンチアルプスからモナコを舞台とした世界最高峰の舞台「モンテカルロラリー」が開催されました。いつの日かモナコで世界の走りを堪能するのがささやかな夢となっていました。(松本)



編 集 後 記

みなさんは食事をする時、家族や親しい人と食卓を囲んで会話をしていますか?

世代によって食事スタイル・話題も様々だと思います。私も忙しい中、食事時間のコミュニケーションは大切にしています。「今日の出来事」「保育園・学校」などを題材に食卓を囲んでいます。特に2歳の娘は言葉を覚えて何でも伝えようと必死です。娘・兄の間に割って入り、片言の日本語を機関銃のように話し、こちらの「すごいね」などの褒め言葉に満面の笑み!このやりとりに幸せを感じます。現代は便利になってきて話さなくても文字のやり取りで済むことが多くなってきました。改めて、人と人、顔を合わせて話すことを大切にしたいものです。(克)

寄附者ご芳名

《平成26年8月～平成27年2月》
○松本久江様 ○高岡 忠様
○宗像光一様 ○片倉直美様
○服部芳裕様 ○齊藤 進様
○渡辺コウ子様 ○佐藤妙子様
○遠藤歯科クリニック様
○角猪狩電気工事様
○太丸屋三延株様 ○広越肉店様
○大成産業様 ○清風幼稚園様
○日本出版販売㈱ 日本児童図書出版協会様
○札幌時計台ライオンズクラブ様
○いわきライオンズクラブ様
○ヤマザキ製パン従業員組合松戸支部様
○オリックス㈱
○公益財団法人オリックス宮内財團様
○米海軍横須賀病院様
○ダンブルPARIS 原田江津子様
○ニット・ルームPARIS 原田敬子様
○オリーブの会様 (順不同)

ご支援をいただきました皆様へ、深く感謝を申し上げます。



オリックス宮内財團様からの福祉車輌寄贈(2015.1.14)